

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201637		
法人名	特定非営利活動法人 つくも福祉グループ		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	長崎県佐世保市大和町1114番地2		
自己評価作成日	令和3年8月6日	評価結果市町村受理日	令和4年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしながら、「その人らしくいきいきと」をモットーに、利用者との信頼関係も深まる様に、お一人ひとりに合ったサービスを提供出来る様に、又、笑いの絶えないホームにしようと日々努めています。ご家族様や地域の方々との関係も大切にしながら、地域に根差した介護を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年1月25日		

当ホームは地域住民との交流を大切に、できる限り住み慣れた地域で生活ができるよう地域に根差したホームを築いている。コロナ禍により活動が制限される状況の中で、運営推進会議は書面会議に切り替えたが、質疑応答が出せるよう書式を工夫したことで構成メンバーからは多様な意見や助言を継続的に得ることができており双方の会議となっている。家族には書面での近況報告や担当職員による電話連絡での入居者の状況等を詳細に伝え、コロナ禍でも途切れのない支援に取り組んでおり、全ての家族が信頼と安心感を抱いている。コロナ禍で外出することを自粛しているが、ホームでのレクリエーションに工夫を凝らし、月1回のイベントとして、魚釣りゲームや風船バレー、花火、購入した桜を飾り花見弁当を食べる等、楽しみを増やす支援に取り組んでいる。理事長は働きやすい職場環境づくりに注力すると共に入居者への更なる良質なサービスに努められており、入居者がホームでの生活を穏やかに過ごされている様子が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H30年に職員と一緒に作り上げた理念を玄関の見える場所に掲げ、管理者と職員は常に実践出来る様に共有している。	平成30年に「その人の生き方に寄り添います」と職員と共にホームの理念を作成した。毎月の会議や勉強会で必ず職員が理念に沿った支援を実践できているか確認し、振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でもあり、公民館行事への参加や地域の方々を招いての行事は出来ずにいたが、出勤時や帰り道に挨拶を交わし、「お元気ですね」とお互いに元気な姿を確認し合ったり、お花や日用品を頂いたりしていままでの様に良い交流を続けられている。	コロナ禍で以前のような地域交流はできていない。地域の長寿クラブの会長から野菜の差し入れや、近隣住民から物品の提供があるほか、昨年12月23日には地区公民館で運営推進会議を開催して地域住民8名が参加するなど地域との繋がりを継続されており、ホームが地域の一員として根付いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でもあり、集まって頂く事が難しくなっている。コロナウイルス感染が落ち着き安全に暮らせる様になった時にはまた以前の様に、地域の方々に貢献出来る様に取り組んで行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でもあり、直接会って運営推進会議を開く事が出来ずにいたが、会議のメンバー一人ひとりに、ホームの状況や活動報告を書面会議という形で行い、貴重な意見やご指導を返信して頂きサービスの向上に繋がっている。	運営推進会議は書面会議とし、入居者の活動状況等を記載した書面と共に意見書を同封して構成メンバーに送付している。構成メンバーから地域の現状等についての報告やホームへの質問、研修内容やヒヤリハットに関する質問等が挙がり、それらに対してホームからの回答を送付し、質疑応答形式にした議事録を作成している。書面会議であっても双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターより電話やFAXにて、ホームの空き状況や入所申し込みの問い合わせ等がある。空き状況や賃金等の説明を行い、入所申し込みの用紙を郵送したりして協力関係を築ける様に取り組んでいる。	地域包括支援センター職員が運営推進会議の構成メンバーとなり、通常会議や書面会議でも意見交換すると共に、ホームの空床状況等を伝えるなど協力関係ができています。長寿社会課や生活福祉課とは運営上の助成金や行政手続きに関する相談を行う等、関係機関との協力体制を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化委員会を年4回(必要時にはその都度)開き、年2回は外部や内部の研修に参加しており、身体拘束について理解する様に努めている。又、外に出て行こうとされる方が自身で戻って来られない為、人手の少ない時間帯には施錠を、人手が充足している時間帯は開錠して対応している。	年4回、身体的拘束等適正化委員会開催と月1回の職員会議において身体拘束に関する勉強会の機会を設け、職員の理解・認識を深めるよう取り組んでいる。また、定期的に内部研修を実施すると共に、入居者状況の変化時や必要時にも会議を行って支援状況を検討する等、日々身体拘束について職員が意識を持ち支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にて学んだり、内部研修を行い虐待防止関連法について学んでいる。職員は虐待が起らないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について外部の研修にて管理者や職員は学んでおり、学んで来た事を持ち帰りホームの勉強会の時に発表し、他の職員に伝達している。必要性がある場合には活用出来る様に支援して行きたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、質問等をお受けしている。又、わからない事や不安な事があれば、電話や来設時にいつでも質問して頂き、説明を行いご理解して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日2回家族会を行っていたが、現在はコロナ禍にあり、書面にてホームの状況や活動報告等を行っている。又、介護報酬改定やコロナワクチン接種の説明等を行い、ご家族様の意向を書面にて返信して頂き、双方の意向が確認でき運営に繋がっている。	現在、コロナ禍により家族会の開催ができていないが、ホームでの生活状況や活動について書面で家族へ報告したり、入居者の担当職員が電話連絡で必要事項を報告する等、継続した家族支援を行っている。また、介護計画見直し時にも家族へ意向を聞き取り、双方向の体制と信頼関係を構築している。	苦情処理体制の強化に繋げるためにも、重要事項説明書には市町村等の苦情窓口に加え、例えば国民健康保険団体連合会や県長寿社会課の窓口を追記するなど家族の更なる安心感と運営の透明化を図る取り組みに期待する。。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング・月1回の勉強会の時には職員の意見や提案はないか聞き、その場で検討している。又、普段からの会話の中でも良い方法はないか言える様な雰囲気があり、少しでもサービスの質の高いものを提供出来る様に心掛けている。	職員はホームの運営に関し、毎月の職員会議で活発な意見交換のほか、日々の入居者支援時に必要に応じて意見や提案を出している。理事長は職員意見を迅速に検討し、入居者の生活上の実践に結びつけ、入居者個々の状況に応じたサービスの提供に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある楽しい職場を作り上げたいと考えている。意見や提案等言える様な環境を作り、研修や講習にも積極的に参加出来る様に体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりに必要と思われる外部の研修に参加出来る様に、勤務のあり方を考え、休みの確保が出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり、同業者と直接的に交流する機会はなかったが、同業者が行った内部研修の資料がFAXにて送られて来た。外部研修が自粛されている中、自分達もサービスの向上を図る為、内部研修を取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面談や契約時にご本人様から要望や不安な事を伺い、意向に沿ってホームの生活を安心して送って頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面談や契約時にご家族から要望や不安に思っている事を伺い、意向に沿ってご本人様がホームの生活を安心して送って頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回のサービスを導入する際、ご本人様やご家族様からの心身の状態を情報等から把握し、その方に今必要なサービスが受けられる様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や洗濯物たたみをしたり、料理の作り方を口頭で習ったり、実際につくって頂いたり、レク等で作品を作ったりと共同の作業をする事でよい関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食欲がない時にはご家族様の手料理を作ったり、ご本人様の好物を持って来て頂いたり、ホーム側からご家族様に状況を説明し、相談して協力して頂きながら、共にご本人様を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で自分の近況報告したり世間話をされており、相手の方よりの電話や手紙が来る事を楽しみにされている。職員は住所や宛名を書いたり投函したり、「電話を掛けて欲しい」と言われた時には落ち着いて話せるように支援している。	現在、コロナ禍により馴染みの場との関係継続が困難な中、入居者の希望に応じ病院受診後に墓参りに立ち寄ったり、以前からの知人と電話で話せるよう支援するなどできる範囲で取り組んでいる。入居者の中にはホーム近隣に親族が住んでおり、希望があれば会いに行く等、コロナ禍であっても感染対策を講じて入居者の希望に沿った支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお互いに声を掛け合いリビングに集う。レクリエーションでは出来る方は出来ない方のお手伝いされたり教えたりとコミュニケーションを図っておられ事がある。職員は利用者同志のコミュニケーションが円滑に図れる様に傍で支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街中や別の場所で偶然、退去されたご家族様にお会いする事があり、ご本人様やご家族様の様子を伺う事がある。その際、相談も受ける事があり説明を行っている。わからない事があればいつでもお電話下さいと伝え、支援出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面談の時やケアプランの更新時にご本人様の意向を伺い、出来る限り意向に沿える様にミーティングや会議の場で、又は、職員同士の会話の中でどうすればその方の希望や意向に沿えられるか検討している。	職員は記録できる用紙を常時携帯し、入居者との日々の会話の中で初めて知り得た情報は用紙に記録し、介護日誌や個人記録に転記し他の職員が把握できるよう情報共有を図っている。また、必要に応じて介護計画にも反映している。介護計画見直し時には入居者や家族から意向を聞き取り暮らし方を検討し意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を、ご本人様やご家族様から伺い記録に残している。その後の会話の中で新たな情報があれば記録に追加したり、話し合いの場で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定にて体調の把握を行っている。記録に残しバイタルが安定されていない方には、再検を行うなどして職員間で言葉を掛け合い情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様に担当者がおり、担当者が中心となってご本人様やご家族様の要望や意向を伺い、担当者会議の場で意向に沿えるにはどうすれば良いかを話し合う。必要時にはご家族様との話し合いの場を設け再度意向を伺い、ご本人様にとって良い介護計画が出来る様に努めている。	ホームでは入居者それぞれに担当者を配置している。介護計画で設定した目標に対する評価を行い、介護計画見直し時に担当者会議を開催し、その評価をもとに目標に対しての達成度を検証すると共に、入居者・家族の意向に沿った介護計画となるよう検討し、より良い介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に毎日の様子等を記入し、ケアの実施の1ヶ月ごとの評価を行っており、現状の把握に役立っている。担当者会議の場でその方の情報を職員同士話し合いながら、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でもあり、病院受診など県外の方は対応出来ない事がありホームの方で対応したり、外出も困難で欲しい物や必要な物を職員が購入して来たりして、状況に応じた対応が出来る様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前には、公民館行事に参加させて頂き、ゲーム等に楽しく過ごさせて頂きましたが、現在では地域資源を活用する事はとても難しくなっている。コロナが落ち着いたらまた参加したいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医でない病院を選択されるご家族様もおられる。他の病院を受診される時には、ホームでの状態をご家族様にお伝えし受診や治療が適切に受けられるようにしている。必要時には職員と一緒に対応する事もある。	入居時に、入居者・家族へホームのかかりつけ医について説明し、かかりつけ医へ切り替え、またはこれまでのかかりつけ医の継続受診等、希望に応じた選択ができるよう支援している。以前のかかりつけ医や専門医療機関等への受診については家族の協力を得て行っている。遠方に居住する家族には職員が受診支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤3名の看護師が介護職を兼務している。体調不良時や異変がある時には、看護師に連絡し指示を仰いでいる。必要時にはご家族様や病院にも連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院される時には、介護サマリーにて医療機関へ情報提供を行い治療がスムーズに行える様になっている。退院時には医療機関からの指示を仰ぎ、ご本人様やご家族様の意向を伺いミーティングや会議を開いて受け入り準備を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて入所時からご家族様と話を行っている。家族会を開く度に説明を行っていたが、現在はコロナ禍で集まる事が出来ない為、必要な方には、個別で看護師と一緒に具体的な症状などの説明を行いご家族様の意向を伺い、主治医に報告・指示を仰ぎ、職員全員で今後の方針を共有しケアを実践して行く。	入居時にホームにおける看取り支援について入居者・家族に説明している。書類として『助かる見込みがないと診断された場合の希望』、『命に関わるような状態の変化があるときについて』、『ターミナルケア依頼書・確認書(確認事項)』を準備している。看取り期に入ると医師の判断を仰ぎ、あらためて家族へ意向を確認すると共に、主治医と連携し職員全員で今後の方針を共有しケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の時、看護師から急変時にはどう対応すれば良いのか指導を受けている。これからも職員は実践力を身に付けれる様に研修があれば率先して参加する様に促していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月一回、日勤帯や夜勤帯の避難訓練を行っている。わからない事がある場合には消防隊の方に伺える様に記録をしている。地域の方々の電話番号も自動火災通報装置に登録しており、応援を頼める様をお願いしている。	毎月、昼間・夜間を想定した自主避難訓練を実施し、有事に備え、職員が的確に行動できるよう努めている。有事における職員の役割分担は遅出職員が翌日の通報、避難誘導、消火の担当者をリビングのホワイトボードに記載し、出勤した職員が目視で確認する事で役割を明確にしている。自動火災通報装置に近隣住民6件を登録し、日頃から有事の際に備えた協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	きちんとした話し方を好まれる方、少し砕けた話し方を好まれる方等、その人その人に合った言葉かけを行う様に心掛けている。また、お一人ひとりの大事にされている事を見極めながら尊厳の保持に繋げている。	職員は入居者を尊重した呼び方を心がけ、入居者や家族から本人への呼称に希望があればホーム全体で話し合いの上、馴れ合いにならないよう留意し取り組んでいる。特にスピーチロックに関して、内部の勉強会等で検討し、入居者が不穏を抱かないよう、嫌な思いをしないよう、入居者本人へ理由をきちんと説明し対応するよう意識付けを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆様と一緒にの時や居室で一人で過ごされている時など、その方の思いや希望が言える環境を作り、話を伺ったり表情から思いをくみ取ったりしている。又、自己決定が出来る様に、工夫して職員は言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人ひとりの考え方があり、その方のペースに合わせて支援を行いたいと考えている。手薄な時間帯にはどうしても優先順位が決まって来る事がある為、その方のその時のタイミングに沿えない時もあるが、ご希望にはなるべく沿える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装選びが出来づらい方もおられ、季節や天気の話をしながらか職員と一緒に服選びを行っている。職員に理容師がおり、髪を切りたい時には、希望に沿える様にしている。時々お化粧をされている方もおられ、商品がなくなる前に気がけてご家族様に連絡をして、いつでもおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を大切に、ツツやフキ、筍等の旬の物を入手出来た時には皮むきや個々にあった作業を職員と一緒にされたりしている。その他も漬物をつけたり、お彼岸にはおはぎを丸めたり等楽しんでおられる。	調理担当の職員を中心に、入居者の咀嚼能力や嗜好を考慮した食事を提供している。誕生会には本人に食べたいものを聞き提供したり、行事食には手の込んだ料理を食卓に並べ喜んで食べてもらえるよう工夫している。町内会定例の味噌作りには職員と入居者が共に参加したり、入居者が野菜の下拵えをする等、食事を楽しめる支援に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズム表にて一日の食事摂取量を一目見ればわかる様に記入されており、その方にあった食事量や形態に合わせ料理を提供している。自ら水分を摂取されない方へは表を作り言葉かけをして、何時に何をどのくらい飲まれているのか一日の水分摂取量を把握できる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人ひとりに合った口腔ケアの支援を行っている。夜間は義歯を預かり洗浄液に付ける様にしているが、1時間もしないうちに「頂戴」と言って持って行かれる方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活リズム表にて排泄のパターンを知る事が出来る様にしており、おおよその時間帯でパットの確認を行っている。又、歩行困難の方が車椅子使用となった場合にはコールボタンを設置し、センサーが反応するとすぐに職員が駆けつけ、排泄の訴えに対応。トイレに移動しパットの確認を行ったりしている。	職員は入居者の排泄状況を排泄リズム表に記録し、排泄状況の把握と自立に向けた個別の支援に努めている。パッド等の使用について検討会を開催し、入居者の排泄状況に応じて適切なサイズのパッドを選択することで使用量の削減に繋げ、家族の経済的負担を軽減できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に体操を取り入れたり、水分と食物繊維が十分に撮れる様に心掛けている。必要な方には主治医より下剤を処方して頂いており、排便のコントロールに繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿ったタイミングでの入浴はなかなか難しい。週2回、曜日を決めて入浴をされている。お好きな方には入浴剤を入れて楽しまれたり、職員との会話を楽しまれたりされている。	週2回、入浴できるよう支援している。毎日入浴ができる準備をしており、入浴を拒否する方や体調不良等で入浴できない場合でも、いつでも代替日を設定して入浴できるよう支援している。菖蒲湯や柚子湯で季節感を味わえるよう工夫し、入居者が楽しく入浴ができる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、お一人ひとりの自分のペースで休息したり、入眠出来る様に努めている。訪室時や巡回時には温度調整節を行い安眠出来る様に支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ひとりの内服されている薬の効能と副作用の出方がわかる様にファイルしており、理解出来る様に努めている。又、往診時には、薬局よりの訪問薬剤管理指導も受けており、服用についての相談等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として朝からの掃除を職員と一緒にして頂いたり、洗濯物たたみや植物の水やりをお願いしている。又、嗜好調査を行い食への楽しみが増える様に献立を立てて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍で外出するのを控えているが、ホームのかかりつけ医以外の病院受診等のご家族様に協力して頂いている。ご家族様が他県在住の場合には職員が受診介助を行う時もある。	コロナ禍で外出支援は困難となっているが、入居者の要望に応じて、病院受診後の機会を利用した外出で要望に沿えるよう努めている。また、レクリエーションに工夫を凝らし、月1回のイベントとして、魚釣りゲームや風船バレー、花火、購入した桜を飾り花見弁当を食べる等、楽しみを増やす支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理になってしまうのですが、入居当所に「3,000円ぐらいお手元に持たれ方がお金を持っているという安心が得られる事があります。」とご家族様にお伝えしている。ホームのレクリエーション(お店屋さん)時にご自分の財布から出してお買物されてお店屋さんの日を楽しみにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他県に在住の子供様との手紙のやり取りを楽しみにされており、職員は切手をつけたり投函したりして支援を行っている。電話を掛けて欲しいと要望があった時には椅子を準備して落ち着いて話ができる様にし電話を掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビングには季節の花を生けて飾ってある。その他、毎月2回、習字をして頂き季節に合った文字や文章を書かれた作品を展示させて頂いている。ソファに座り、その書かれた文字を1枚1枚ゆっくりと読まれている方もおられる。又、電灯やカーテンで光の調節を行い、温度調節もこまめに行っている。	ホームの共用空間には季節感を感じさせる装飾や季節の生け花を飾っている。月2回、習字の時間を設け、入居者が書いた季節感のある文字や文章の作品を展示している。廊下のソファに入居者が座ってゆっくりと寛ぎながら自分の書いた作品や他の入居者の作品を読めるよう工夫している。フロアは採光良く明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階や2階にソファを設置しており、そこに座って考え事をしたり洗濯物をたたんだり、気の合った方同士で世間話をしたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て頂ける様に言葉かけを行い、ご自宅で愛用されていた物を持って来て頂き使用して頂いている。居室の家具の配置もご本人様やご家族様の意見を取り入れて、居心地よく過ごせる様に支援している。	居室は以前からの入居者の馴染みの物を配置し、家族の写真、自分で作った作品を飾る等、入居者がその人らしく生活できる環境を支援している。位牌や仏壇等の持ち込みも可能で、入居者がこれまでの生活を継続でき、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからない方や手をどれで拭けばいいのかかわからない方が居られるので、貼り紙を行いわかりやすくしている。		